

1 自分を高める
① よく考えて節度ある生活を

P.10~19

1-(1)

自分でできることは自分でやり、よく考えて行動し、節度のある生活をする。

1-1の内容項目のページの特徴

本内容項目は、学習指導要領で示されている道徳の指導内容の重点の一つである自立心や自律性を育てることと関連の深い項目である。節度ある生活についての内容は、大きく二つからなる。

一つ目は、基本的な生活習慣に関することである。十から十三ページについては、小学校の時期に身に付けるべき基本的な生活習慣について、自分の生活を見つめ直して考えることができるようになっていく。また、ことわざを取り上げることにより、これらの基本的な生活習慣は、昔から大切にされていることに気付くことができる。さらに、社会で活躍している人の話からは、小学校の時期に身に付けた生活習慣は、生涯にわたるあらゆる行為の基盤となることに気付くことができる。

二つ目は、進んで自分の生活を見直し、思慮深く考えながら自らを節制していくことである。十四から十九ページの話のコラムと読み物資料は、度を過ぎさない節度ある生活について読み物を読んで考えられるようになっている。

2 活用のポイント

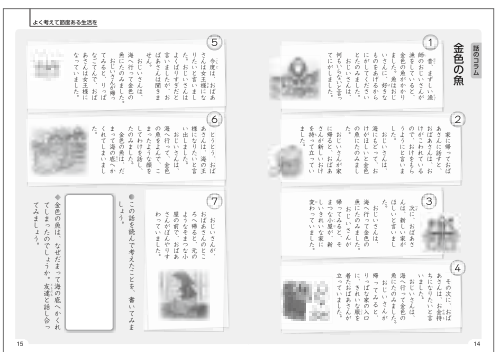
中学年の段階では、低学年での、健康や安全に気を付

けること、物や金銭を大切にすること、身の回りを整えることなどの具体的な指導を発展させて、自分でできることは自分でやり、よく考えて節度ある生活をする。ことなど、生活面における自立を重視した指導を充実することが期待される。

3 活用場面例

道徳の時間

他の人から言われるのではなく、自ら考えて度を過ぎさない節度ある生活ができるよう、生活面における自立を重視した指導を進めていく際に十四から十九ページの話のコラムと読み物資料を活用することができる。なお、低学年同様、基本的な生活習慣に関する具体的な事項については、継続的に指導していく必要がある。



P.14~15

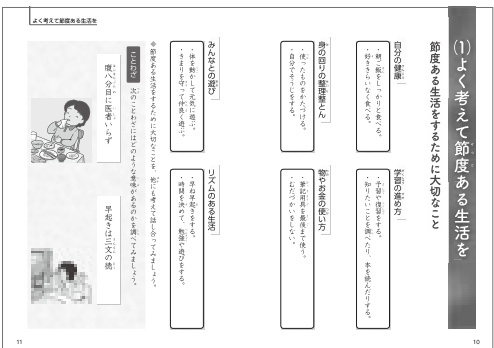
事例

- ①話のコラム「金色の魚」を読んで、考えたこと、また、なぜ金色の魚が黙って海の底へ隠れてしまったのかについて話し合い、十五ページに書き込む。
- ②読み物資料「少しだけなら」を読んで、主人公の気持ちを考え、よく考えて行動し、節度ある生活をする。ことについて話し合う。
- ③二つの話を通して考えたことについて、自分の生活と重ね合わせて話し合う。

特別活動（学級活動）

学級活動の内容「(2)

日常の生活や学習への対応及び健康安全」の「基本的な生活習慣の形成」の指導に当たって、自分の生活を振り返って、基本的な生活習慣を身に付けていこうとする態度を養う際に、十・十一ページを活用することができ



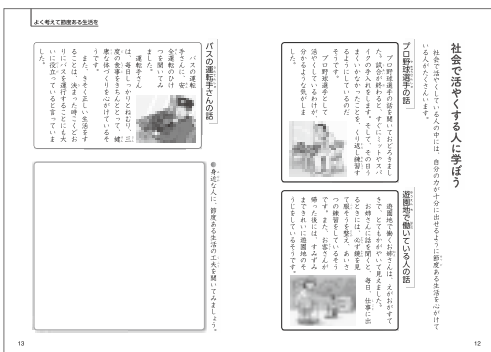
P.10~11

事例

- ①十・十一ページの六つの項目について、自分の生活を振り返って、節度ある生活とは、どのようなものなのかを話し合う。
- ②十一ページの二つのことわざについて調べたことを話し合う。
- ③十・十一ページの六つの項目十二の内容を基に、自分の生活目標と実践方法を決めて、「生活カード」に表し、実践してチェックする。

家庭との連携

子供のときに節度ある生活を身に付けることが、大人になったときに役に立つこと、また、生活や仕事をする上で、節度ある生活をする。ことは、大人になっても大切であることを家庭で話し合うときに十二・十三ページを活用することができる。



P.12~13

1 資料の特性

家でインターネットを使っていたあつしは、パソコンの画面の中に、興味深いサイトを見付け、母との約束を破ってそのサイトを見てしまう。自分の名前や連絡先の入力求められ、一度は電源を切ったあつしだったが、「少しだけなら」と思い直し、再びそのサイトに名前を入力しようとする。そのとき、タイマーが鳴り、自らを省みるという内容である。

誘惑に負けそうになる弱い心に打ち勝ち、節度ある生活をするこの大切さについて考えることができる資料である。

2 指導上の留意点

社会における情報化の進展に伴い、容易に情報の収集や発信などができるようになった。しかし、そこには、情報社会の影の部分も同時に広がっている。誘惑に負け、安易にインターネット等で情報の受け渡しを行うことで、多くの人に迷惑を掛けたり、自らが被害に遭ったりする危険性が潜んでいる。

指導に当たっては、情報モラルに配慮し、自分自身の行動についてよく考え、節度ある生活をしていこうとする態度を育てていくようにしたい。

⑤ 自分でよく考えて思いとどまった経験について話し合う。

事例②

情報モラルに配慮し、節度を守ることの難しさについて考える展開

【主な学習】

- ① 怪しいサイトは見ないとお母さんと約束していたのに、あつしは、どのような思いからサイトをクリックしたのだろうか。
 - ・ 見るぐらいなら大丈夫だろう。
 - ・ 何も危ないこともなく、割引券がもらえるかも。
- ② 一度目は諦めたのに、もう一度サイトに進み、名前を入力し始めたのはどのような思いからか。
 - ・ 名前を入力するとどのようなことが起こるのか考えられなくなった。
 - ・ みんなもやっているだろうし、何か起こればそのとき考えればよいと思った。
- ③ 自分だったらこのようなとき、どのように思うか。
 - ・ 危ないことに巻き込まれたくないので、名前を入力するのはやめよう。
 - ・ 好きなゲームソフトの割引券なら、名前を入力してしまうかもしれない。
- ④ インターネットなどを使うときに、気を付けなければならないことについて、自分の経験などを基に話し合う。
 - ・ 便利だし楽しいこともあるけれど、怪しいサイトもあるので、よく考えて使わないといけない。

3 展開例

【ねらい】

よく考えて行動し、節度ある生活をしようとする態度を育てる。

事例①

あつしの思いを通して、よく考えて行動することの大切さについて考える展開

【主な学習】

- ① お母さんと約束をしたあつしは、どのようなことを思っていたか。
 - ・ 絶対、約束を守るよ。僕を信じて。
 - ・ 大丈夫。危ない目になんか遭わないよ。
- ② 割引券の画面を見付けたあつしは、どのようなことを思っていたか。
 - ・ いいな。何とかして手に入らないかな。
 - ・ お母さんもまだ帰ってきていないから、少しくらい大丈夫だ。
- ③ タイマーの音を止め、パソコンの画面をじっと見つめるあつしは、どのようなことを考えていたか。
 - ・ 約束をしたのに破ってしまった。
 - ・ 自分は弱い心に負けている。これでは情けないな。
- ④ お母さんに尋ねられ、下を向いてぼつりと答えたあつしは、どのようなことを思っていたか。
 - ・ 本当は、約束を守れていないのに。あんなことしなければよかったな。
 - ・ 今度からは、もっとよく自分で考えなければならぬ。

❖ 1の視点 重点ページ

自分を見つめ、自分を生かそう

1 このページの特徴

二十・二十一ページの詩は、自分との関わりにおいて自己の生き方を捉え、夢や目標をもって明るく生活し、自分の人生を切り拓いていこうとする意欲を高めることができる内容となっている。

2 活用事例

■ 日常生活

この詩の音読や暗唱、歌唱などを取り入れ、自分自身を見つめ直し、日々の生活を律したり、希望をもったりすることができるようにする。また、校内に掲示し、随時、読めるようにして、意識付けを図ることもできる。



P.20~21

P.20~21